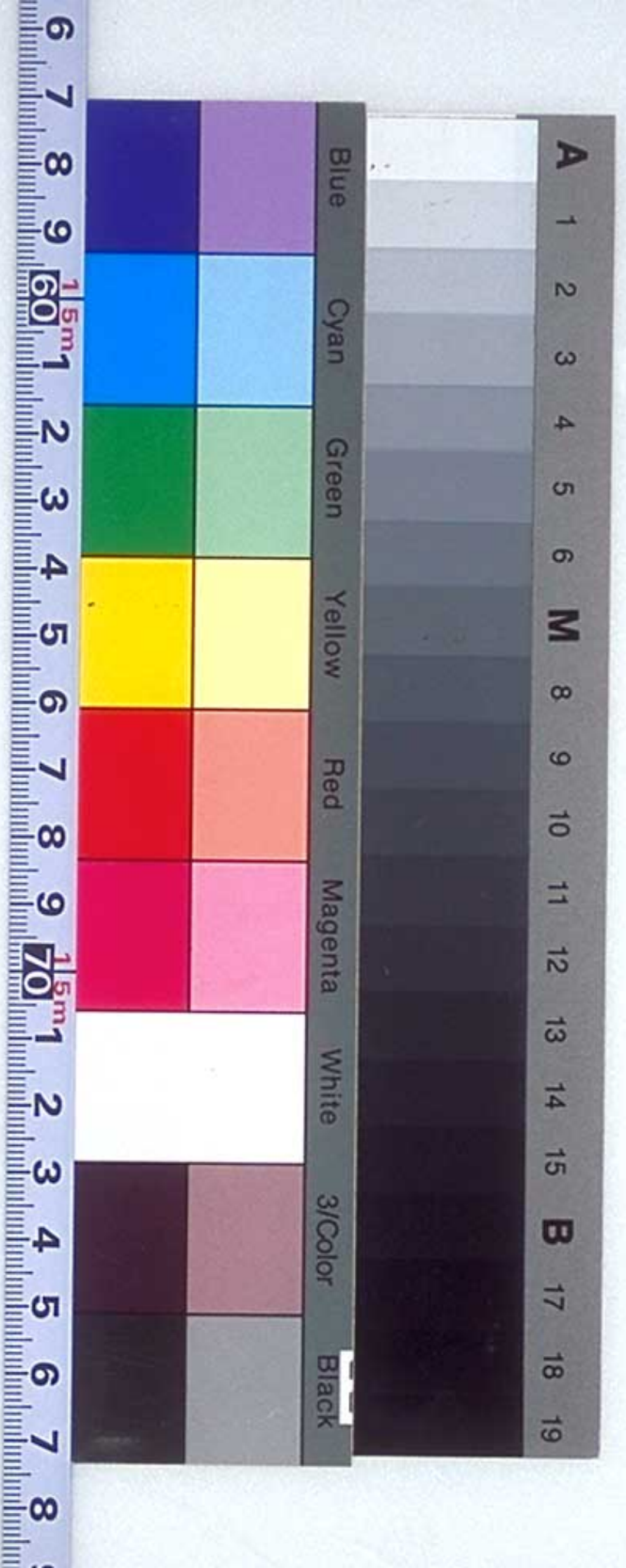




写字台

913.64
4
3

卷一百四十五

慧	
16	架
8	號
共	第
冊	冊

凡物乃化する。や石の燕となり華
 名蟻蟬と化する。く化する。くへー
 あり小鳥山石葉なるもの画はあき好
 こと年何里その事示く化しき
 あり羅美象ふさくく山婦との意
 さきよりる山立后を著し世人主
 ありしけく古國のる鬼抱けし據



意をかへ密に補ふを辨何来とやく
見とて免て梓より毒せんやとて
授ふよとて六考とて一陰陽風
雨晦明とてまゝとて一其師とて
畫圖不究夜行とて歌一己尔
前編三冊成ぬとて一於のまゝ序
とて予もとて心燕とて依歌の女と
てお涙あくとて一き程とて辭とおと

はに堂、快力氣神を、
のい、め、我ももる人、
と、遊る乃お、い、な、
され乃こ

あ、有、新、集、乙、未、
紫、陽、主、人、老、替、帖



燭

左蠶篆



○あしな

○やまむこ

○山けつハ

○白ちご

○川太郎

○あうなめ

○かほいそら

○きつ子火

○天狗

○山うむ

○犬神

○祢あまき

○かほうそ

○たぬき

○かこきり

○木魅^{こま}

百年の樹はハ
神ありてかたちを
いへるなり



○
天
狗



○
幽
谷
郷
音



やまこゝろ
山童



やまうた
山姥



○ いぬうゑ
大神
○ しろこ
白児



○ ねこ
猫



川太師より
かつて
河童



かいうそ
瀬





○ かまいたち
穴 奇



○ 紙 剪
り



○ きつみひ
狐火





写字台

913.64

4

3

慧

16 架

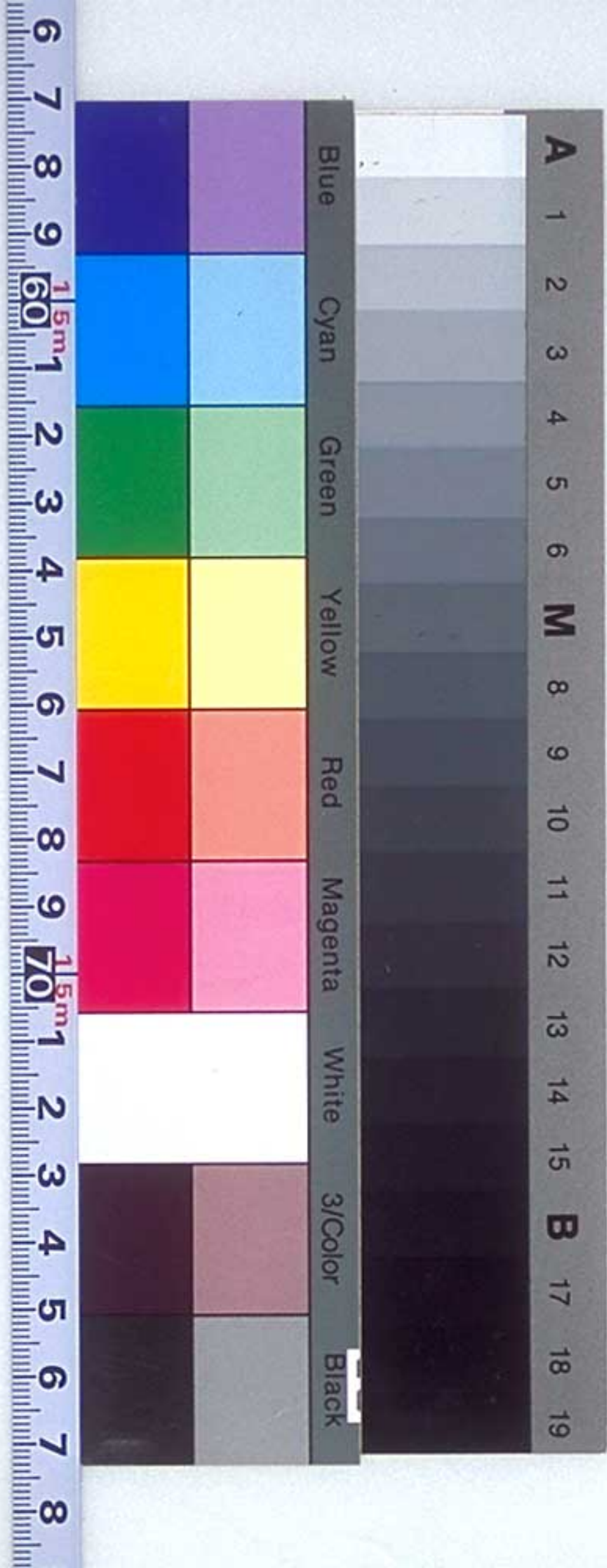
8 號

共

第

冊

冊



6947
12. 6. 15

易

老
子
易
象



○女帝くそ
 ○さうげん火
 ○読るべ火
 ○うむが火
 ○あうか
 ○言女
 ○洗鼠
 ○ろくろくび
 ○海産既
 ○いきれ
 ○ゆきまお

○てんくら
 ○くハーヤ
 ○あう火
 ○さうけら
 ○聖坊
 ○手の目
 ○黒塚
 ○うぶめ
 ○雪女
 ○死まう

○おらうも
 ○絡新婦



○ 鼯と柱り

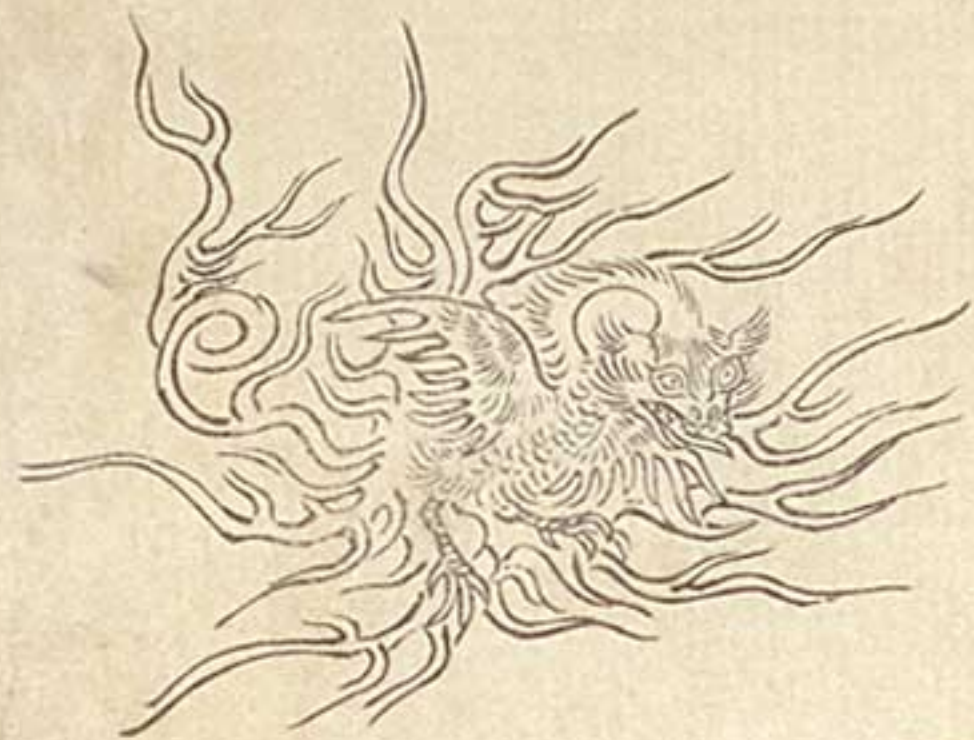


中ノ一

さらけら
逆柱



○ 火



○ まる
反枕



○火車くわーや



○姥おばが火

河内玉ありと云ふ



○ 姑^う獲^ぶる^り



○ 鳴^や屋^り



○ 野寺坊
のてり



○ 海座頭
うきざう



○おの目



○おの女



○ 終鼠
 くらぐれお
 新家の霊氣と化と
 世にあらふ



○ 黒塚
 くらつ
 奥別安達原にあり
 鬼古歌よもきこも



○飛ろくかく天てん童どう



○叢そくじん原ひ火か

洛外西院の南王生寺の
かきくまより俗これと朱
桂の家原火といふ



○ つるべ
釣瓶火



○ ゆきこ
雪女



○生霊
いまだ



○死霊
いまだ



○
幽
霊



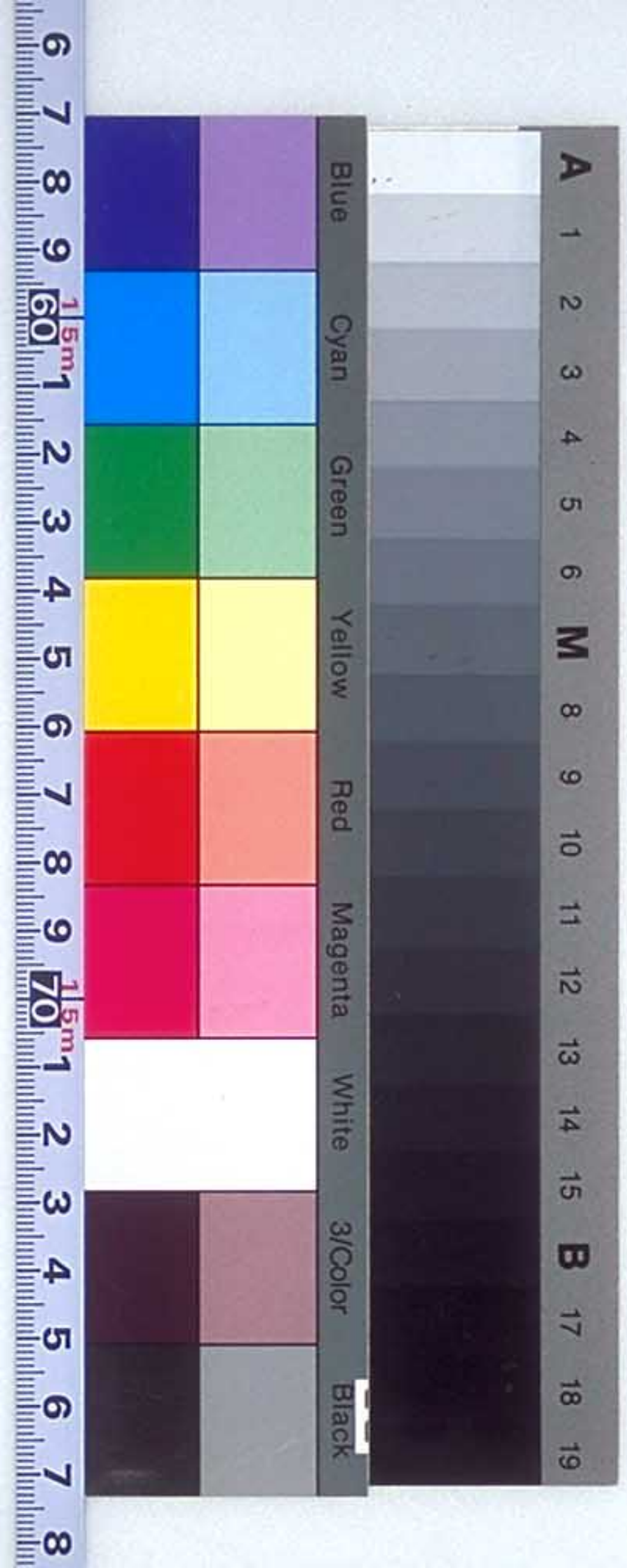


集古堂藏書

写字台

913.64
4
3

意
16 架
8 號
共 第
册 册



6947
12. 6. 15

風

風



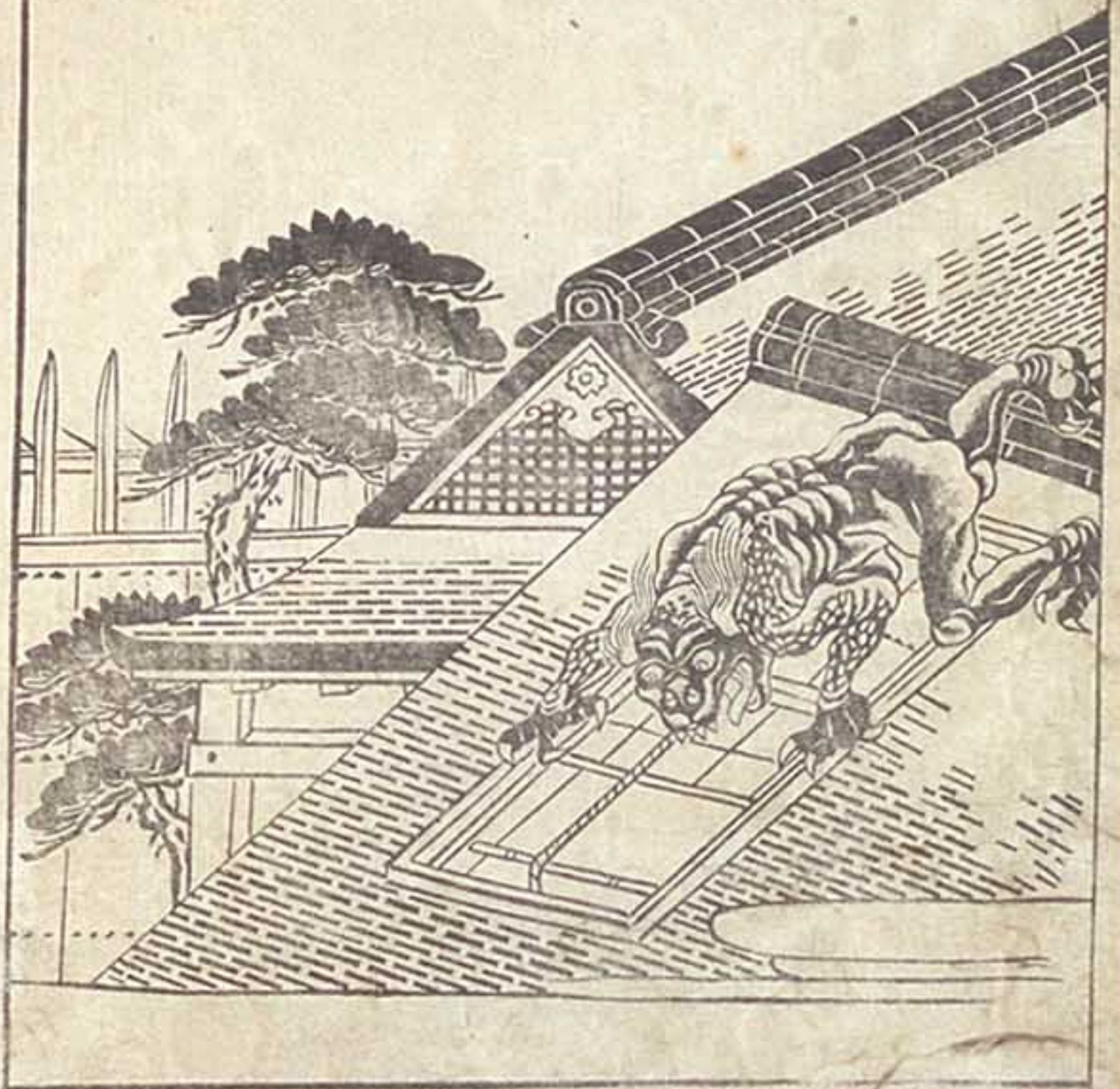
○見哉ミヤ



○又あー
○ひやうまべ
○おとろ
○ぬき女
○ぐいごせ
○まがらぎ
○ぬいっつあ
○うらん

○せうけら
○まいら
○ぬき佛
○めりひん
○おうに
○赤ー
○牛かに

○せうけら



○ひやうかい



○
ちとろー



○
ちとろ



ねねん
○雪女



ぬりや
○塗佛



ト
三

ぬれんち
○雪女



ぬれんち
○塗佛



○
ぐでせ
元興寺



○
めうていん



○あかぢぢ
青坊主



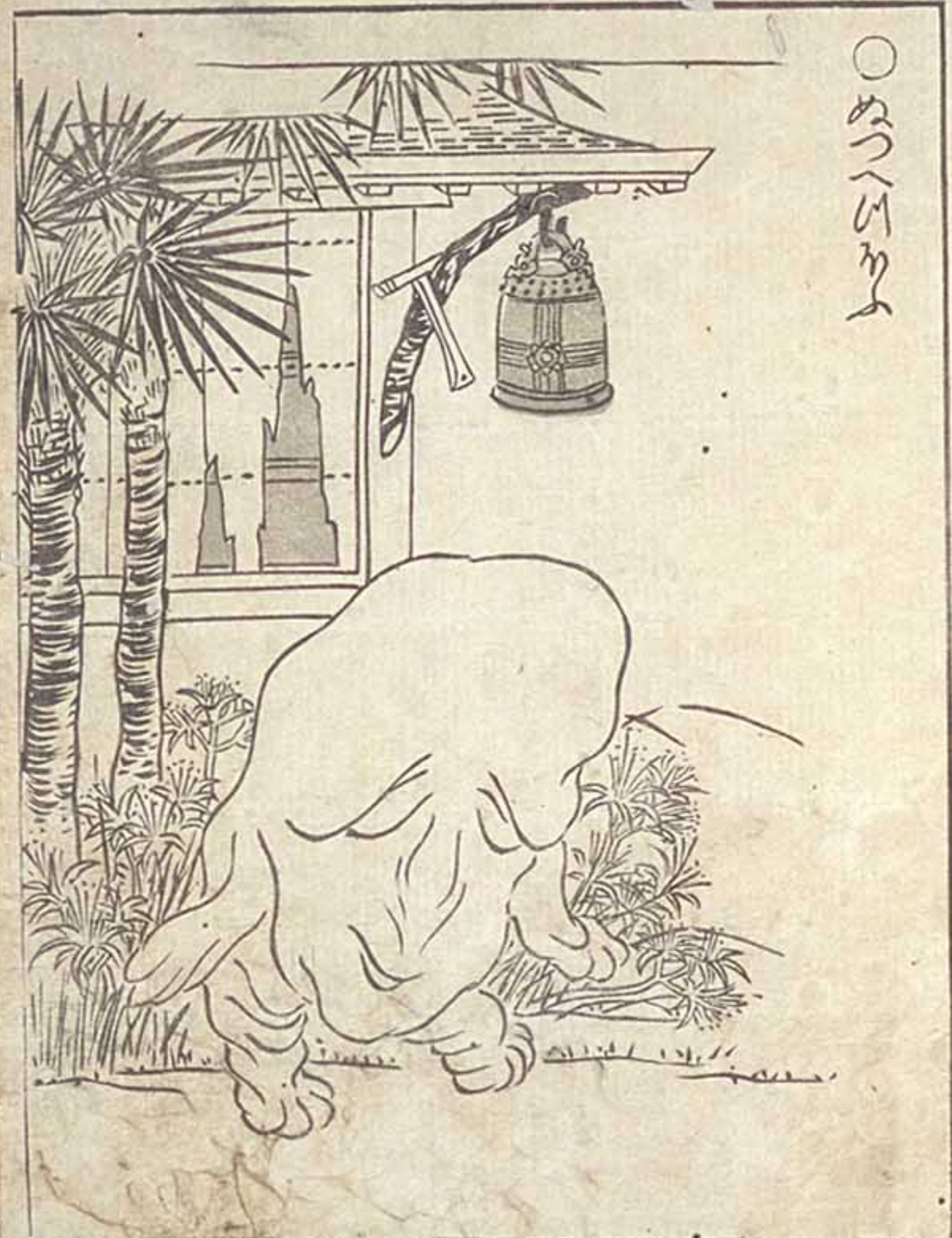
○夢
うに



○あし
赤舌



○あし
あし



○
牛鬼うしおに



○
うしおに



詩も人心に物ゑ感へて聲を發
するものと語画ハ毎声の詩や
うや形あるて聲素——了みあは
くよりて情をたこし感を催す
さ神をも語ありて山海經 吾朝
元信の百鬼夜行りて予これ小
學より讀みぬと帝筆戯作を

と記す書林何某需る小頻あるを
いなりとかなくも桜ありては——ぬ
々——了れ童蒙に弄るる如し
きのとみ未る秋菊月於月窗
下石燕自跋



鳥山石蕒豐房

校合門人

子興
月沙

画圖百鬼夜行後編 近刻

彫工 町田助右衛門

江戸日本橋通壹丁目

御書房

出雲寺和泉掾

安永五^丙申春

元飯田町中坂

書林

遠州屋弥七

版 閑

